

【2006年度】

(講演)

1. 日本睡眠学会第31回定期学術集会、シンポジウム「睡眠知識の普及と応用」において「睡眠のものさしづくり」の演題で講演実施。2006年6月29日
2. 静岡大学生物産業創出推進拠点第13回研究会において「睡眠・覚醒研究における生体生理の計測評価とその応用」の演題で講演実施。2006年7月14日

(著書・論文・学会発表など)

(学術論文)

1. 谷田陽介、萩原 啓：心拍RRIのローレンツプロット情報に着目した入眠移行期の簡易推定法、生体医工学会誌 44(1):156-162, 2006

(学会誌・専門機関誌(依頼論文、解説論文))

1. 萩原 啓：特集「眠る技術・目覚める技術」編集、人間生活工学 7(4):1, 2006

(国際学会発表論文)

1. Fumi Toyofuku, Kazuhiko Yamaguchi, Hiroshi Hagiwara: Simplified method for estimating parasympathetic nerves activity by Lorenz plot of ECG RR intervals, The 9th Korea-Japan Joint Symposium on Ergonomics 512-515, 2006

(学会発表論文)

1. 野田晃平、萩原 啓：脳内血液中酸素化ヘモグロビン計測による追従反応課題時の生理的特徴評価、生体医工学シンポジウム 2006 185-192, 2006
2. 谷田陽介、萩原 啓：心拍変動を用いた入眠状態の簡易推定法、ヒューマンインタフェースシンポジウム 2006 229-234, 2006
3. 山口和彦、豊福 史、萩原 啓：接触振動圧刺激のリズムが心身の諸生理・心理機能に及ぼす影響、第21回生体生理工学シンポジウム

81-84, 2006

4. 若林春樹、池田典央、竹内謙志、谷田陽介、萩原 啓：センシング手法の違いによる睡眠時体動の特徴抽出、第 21 回生体生理工学シンポジウム 89-92, 2006
5. 豊福 史、山口和彦、萩原 啓：心電図 RR 間隔のローレンツプロットによる自律神経活動の簡易推定法の開発、第 21 回生体生理工学シンポジウム 431-434, 2006
6. 橋崎将典、上田真樹、中村美穂、山田隆登、萩原 啓：脳内ヘモグロビン濃度変化による注意状態の定量化、平成 18 年度日本人間工学会関西支部大会 89-92, 2006
7. 中村美穂、橋崎将典、野田晃平、萩原 啓：活性状態の違いにおけるパフォーマンス及び生理状態の差異検討、平成 18 年度日本人間工学会関西支部大会 103-106, 2006
8. 小川 梢、芝垣佑美、三田裕亮、萩原 啓：心拍ゆらぎを用いた音刺激による生理的影響の評価、平成 18 年度日本人間工学会関西支部大会 159-162, 2006
9. 原田弘孝、石丸園子、萩原 啓：心理状態と生理計測値との対応関係について -疲労および爽快-、第 55 回生理人類学会 , 2006
10. 橋崎将典、上田真樹、中村美穂、山田隆登、萩原 啓：NIRS 計測を用いた注意状態の定量化、第 3 回モバイル研究会 1-4, 2007
11. 中村美穂、橋崎将典、野田晃平、萩原 啓：活性状態の違いにおける脳内血中 Hb 濃度変化とパフォーマンスとの関係、第 3 回モバイル研究会 5-8, 2007
12. 萩原 啓：睡眠のものさしづくり、日本睡眠学会第 31 回定期学術集会抄録集 31, 72 , 2006
13. 萩原 啓：睡眠・覚醒研究における生体生理の計測評価とその応用、静岡大学生物産業創出推進拠点第 13 回研究会 13, 6-7, 2006

以上